

政府共通プラットフォーム構築による効果について、以下のようなものが考えられる。

開発・運用 コスト効率化	<ul style="list-style-type: none">❖ ハードウェア資源やオペレーティングシステム・ミドルウェア等のソフトウェア資源を統合・集約化対象システム間で仮想化技術も用いて共有することにより、新規アプリケーション構築の際にこれら資源を有効活用❖ 政府共通プラットフォームにおいて、各府省におけるアプリケーション開発・テスト・動作環境を提供することにより、迅速なシステム立ち上げや期間限定のシステム構築ニーズに対応するとともに、新規アプリケーション構築経費を効率化
管理運用に係る 負担の軽減	<ul style="list-style-type: none">❖ 政府共通プラットフォームで統合・集約化する対象システムの管理運用業務を一元的に実施することにより、統合・集約化する対象システムの管理運用に係る業務、要員等の負担を軽減
グリーンIT への貢献	<ul style="list-style-type: none">❖ 政府共通プラットフォームで統合・集約化する対象システム間でサーバー・ストレージ等ハードウェアを共有利活用するとともに新規アプリケーションを構築する際もこれら資源を共有利活用することにより、消費電力の削減、発熱量の抑制、省スペース化が可能
業務見直し推進	<ul style="list-style-type: none">❖ 政府共通プラットフォームにおいて、各情報システムが保有するデータの連携機能を整備することにより政府内部における情報の利活用・共有を促進し、業務をより一層効率化❖ 政府共通プラットフォームにおいて、各情報システムが保有するデータの連携機能を整備することにより、政府内部における事務処理時間を短縮
安全性・信頼性 の向上	<ul style="list-style-type: none">❖ 政府共通プラットフォームで統合・集約化する対象システムの管理運用を一元的に実施すると共に「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準」に準拠した一元的セキュリティ対策を実施するとともに、システムの冗長化・分散処理や監視体制の強化でシステムの可用性を向上することにより、安全性・信頼性を向上